

The 54th Annual Meeting of Japanese Society for Neurochemistry

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30247

『学会見聞記』

第54回日本神経化学学会大会に参加して

The 54th Annual Meeting of Japanese Society
for Neurochemistry

西谷 真希

金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻
医療科学領域病態検査学 博士前期課程2年

2011年9月26-28日に石川県加賀市山代温泉瑠璃光で行われた第54回日本神経化学学会大会に参加し、発表を行った。テーマを「分子とこころ」と題し、学会とともに故マーシャル・ニーレンバーグ博士(1968年ノーベル生理学・医学賞受賞者)の追悼シンポジウムも同時に行われた。本大会はシンポジウム、一般口演、ポスター発表、ランチョンセミナーなどのべ300近くの演題が発表された。我々の研究室からは私も含め4人で参加した。今回は地元石川県での開催、重ねて日本有数の温泉地ということで、国内外から多数の参加があった。また記憶に新しい東日本大震災によって甚大な被害を受けた東北地方からも参加されていた。本学会は基礎系および臨床系の研究者が一同に会して討論し、情報交換の促進ならびに人的交流を行うことで数多くの共同研究成果を生み出すことを標榜している稀有な学会である。発表内容は神経再生、うつ病や統合失調症などの精神障害、パーキンソン病などの神経変性疾患など多岐に渡っており、様々な発表を聞くことができた。また昨年度の大会と同様若手育成セミナーも企画されており、毎日活発な討論がなされていたと聞いている。また研究とは関係ないが、昼食で配られていた「頭脳パン」についてのおもしろい話を伺ったので紹介したい。頭脳パンとはその名の通り、食べるとうるまひと言われており、通常のお麦粉よりもビタミンB1が多く含まれている頭脳粉なるものを原料として使っている。なぜビタミンB1かというと、脳がブドウ糖を取り込む際に必要であるらしい。そしてこの頭脳粉、全国で金沢の製粉所だけが作っているそうだ。まさか金沢に頭脳パンのルーツがあったとは驚きである。この効果をあやかりたいと思いつつ私は昼食に出たパンをほおばった。

さて、私は今回魚類視神経損傷後の山中ファクターの挙動と題してポスター発表を行った。本研究室では、魚類の中樞神経再生のメカニズムを分子、細胞や組織そして行動レベルで解析している。中でも私が注目したのは2006年に京都大学の山中教授らによって発見された分化万能性を持つiPS細胞である。再生医療の発展につながるとして近年注目を集めており、このiPS細胞を作製する際に必要な4つの転写因子(klf4, sox2, oct3/4, c-myc)は山中ファクターと呼ばれている。この山中ファクターを体細胞に導入することで細胞が初期化されiPS細胞ができる。我々は魚類の視神経が損傷すると、その細胞が初期化され、神経幹細胞様の状態になり再生が可能になるのではないかと仮説を立て、今回の発表内容とした。1時間という短い時間であったが、関心をも

って聞いてくださる方が多くいらっしゃった。また、同じ魚類を用いて研究されている方と情報の交換もでき、発表は充実したものとなった。発表時間以外はシンポジウムや大学院生口演などをいくつか聞いた。臨床から基礎研究まで幅広いジャンルの発表を聞くことで、あらゆる方向から物事を考えることの大切さを学ぶことができたように思う。

また本学会と同時に開催された故マーシャル・ニーレンバーグ博士の追悼シンポジウムは能残月という会場で行われていた。エントランスからその他の会場とは違う雰囲気が感じられ、さらに会場内に一歩踏み込むと異空間が広がっていた。広いホール内では海外からの参加者が故人を偲びつつ発表を傾聴していた。

会場が温泉ということもあり、会中には瑠璃光の温泉を利用することができた。会場は貸し切りで、参加者は皆ゆったりと湯船に浸かって発表の疲れを癒すことができたのではないと思う。広くきれいな露天風呂もあり心身ともにリフレッシュできたので、学会に参加していることを忘れてしまいそうであった。温泉街ということで時間もゆったりと流れており、他学会とは一味違う温泉地ならではの過ごし方ができた。

今回の学会を終えて、今の研究テーマに関してより一層深く追求していく必要性を感じた。よりよい研究結果を残せるように日々の実験を進めていこうと改めて決意することができたよい機会であったことを感謝したい。

